

## 特色のある学びに関する取組紹介

学びの改革支援課

### ■ 佐久市教育委員会の取組

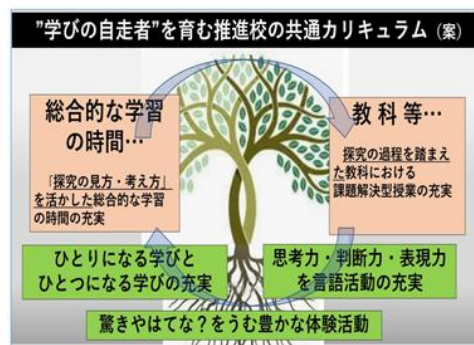
～探究を中核とした授業改善を進めるための職員研修の工夫と取組～

佐久市教育委員会では、本年度、県教委の学びの改革パイオニア校構築支援事業を活用し、岩村田小学校、佐久平浅間小学校、中佐都小学校、高瀬小学校、浅間中学校の5校を先行研究推進校として「探究」を中核とした授業改善を進めている。初年度の今年度は、教員自身が探究を体験する中で子どもが探究的に学ぶ授業の在り方について研修を行っている。

岩村田小学校では、教師自らが「探究」を体験する場として「大人の遠足」を実施した。そこでは、新たな地域素材の発見を目指し、学校付近の探索を行った。教師自身が校地周辺に残される岩村田城の土塁や井戸跡などを探索することを通して、新たな発見や疑問が生まれる瞬間を体感する研修の機会となった。

また、学年ごとに教科書を持ち寄り、探究の過程を踏まえて行う教科学習について、単元展開等を検討し合った。研修に参加した職員からは、「教科の学習においても、子ども自ら問いを立て、解決していく学習を構想したい」「答えを出して終わりの授業ではなく、その答えの求め方を吟味する授業を行いたい」など、教科の学習における探究的な学びについてさらに議論する様子が見られた。

今後は、5校で相互に授業を参観するなど、さらに研究を進めていく予定である。



【研修会の様子】

### ■ 高森町教育委員会の取組

～不登校の子どもたちへの支援、中間教室「ぱれっと」の取組～

高森町教育委員会では、県教委の学びの改革パイオニア校構築支援事業を活用し、町教委と、こども家庭総合支援室が連携し、子どもたちが気楽に立ち寄れる居場所として、町の中間教室「ぱれっと」の充実を進めている。

「ぱれっと」では、教科学習支援だけでなく、地域の方々と関わりながら、体験活動を通して自分の可能性を広げ、自己肯定感を高めていく居場所というコンセプトのもと、子どもたちがやってみたい活動を「〇〇の会」として、月に1～2回行っている。

例えば、「カレーの会」では、中間教室に通う子どもと保護者、ボランティア、町職員が協働して、カレー作りを下ごしらえから行った。また、「ミシンの会」では、製作したおんぶひもやスカートを持参して保育園を訪問した。訪問をきっかけに、園児とのサツマイモの苗植え、外遊びや散歩、夏祭りのお手伝いへと発展している。

体験活動のほとんどは、地域に住む方々で構成された子ども支援ボランティアグループの協力を得ながら行われている。地域の方々が支援者となり、「自分らしい学び」を積み重ねることで、登校することに抵抗感をもち、自信を無くしている子どもたちが自己肯定感を高め、自立するためのエネルギーを養う一助となっている。今後もさらに、安心して過ごすことのできる居場所づくりを進めていく。



【「カレーの会」の様子】



【中学生が製作したスカートを試着する保育園児】